

令和五年度 奈良県租税教育推進連絡協議会長賞

税金による道路の維持管理

桜井東中学校 三年 沓掛 綾乃

去年、土砂崩れでスクールバスが通行できなくなり、土砂崩れの箇所より先に住む友人らは、途中まで家族に送迎をしてもらっていたことがあった。しかし、一週間もせず復旧した。またニュースでは、日本各地で台風や集中豪雨による災害で、道路が寸断されるなどの被害をしばしば目にするが、すぐに復旧される。これらは国や自治体が所有している公道なので、所有者である国や自治体によって管理され、復旧されるのである。道路とはそういうものなのだと思っていた。

ところが、住宅地内の私道が傷んだままになっていて、住民たちが困っているという報道を見た。私道とは、個人や団体などが所有している道路のことで、所有者に通行許可の権限があり、道路整備なども所有者が行うものである。報道されていた件では、私道を管理していた民間業者が倒産してしまい、その後は管理されず道路や橋などが傷んだままで放置されていた。割れて歩行者以外通行禁止の橋や、大きな穴が開いたままの道路など、危険な状態になっていた。住民は、危険だからなんとかしてほしいと市に補修や私道の買取を申し入れた。しかし市からは、公平性の観点から特別扱いできない、住民負担にて補修すべきと断られている。住宅街の私道は、マンションの共有部のようなものであり、本来は業者が倒産した時点で、住民たちが管理組合を作って、修繕のために積立金を集めておくべきであったのではないかと考える。

この報道を見て、私自身は通行に支障があったり危険であったりする状態の道路を見たことがないことに気付いた。普段通行している道路が、あたりまえに管理されていることのありがたさを感じた。道路表面のひび割れやがたつきといった傷み、薄れた白線などは時々部分的に徐々に補修されていて、常に安全に通行できる状態に維持管理されている。また、冬になると、市の車が歩道にある階段や駅につながる橋、河川橋などに融雪剤の袋を置いていくのを見たことがある。これらも安全に通行できるようにするための道路管理の一つと言える。

道路維持管理費の財源は、私たちの税金である。傷んだ私道の報道を見て、普段通行している道路が常に管理されている状態であることの大切さに改めて気づいた。インフラ等必要不可欠なものを便利・安全に利用するために、有効に税金が使われていることが分かった。

今はまだ消費税くらいしか自覚できる税金の支払いはないが、これから大人になると、様々な納税の義務を果たす立場になる。税金が日常生活になくてはならないインフラ整備にも使われていることをよく理解し、自分や大切な人や社会のために、しっかりと納税に努めていきたい。